

おん

泉山長老
俊朝

京都第一日赤だより



人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

夏号

2009年7月発行

vol. 37



先日は当院の病診連携懇話会に多数ご参加していただき心より感謝申し上げます。

会の趣旨にありましたように、医療機関単位でなく地域連携で医療を提供する時代となりつつあります。効果的な地域連携を進めていくためには、「地域連携で、より安心・安全で質の高い医療を提供していく」理念と、具体的な目標・方法を共有していくことが重要です。医療を受ける側から見れば電子カルテによる患者情報の一本化が理想的ですが、現状では困難ですので地域連携パスが主力になるかと存じます。実際の現場では様々なバリエーションが発生しますので、定期的な検証と問題解

決のための改善活動の積み重ねが成功の鍵になるかと思えます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、もう一つの地域連携として是非お願いしたいことがあります。

当院は多くの研修医を抱えこれからの医療を支える医師養成機関でもあります。地域医療における役割分担と連携についての研修につきましては、医師会の先生方のご協力が欠かせません。どうぞよろしくお願い申し上げます。

京都第一赤十字病院 副院長 池田 栄人

腎臓内科

腎不全科

新設の御挨拶

腎臓内科・腎不全科 部長 中ノ内 恒如

この度、新規開設されました「腎臓内科・腎不全科」の部長を拝命いたしました、中ノ内恒如と申します。よろしくお願いいたします。

当院の透析医療および血液浄化治療は、長きにわたり元泌尿器科部長である岩元則幸先生が牽引して来られました。08年3月に岩元先生が退職された後は、私が泌尿器科副部長として腎センター長兼透析室室長を引き継いで参りましたが、このたび新たな仲間として腎臓内科の草場哲郎医長、石田良医師の2名を迎え、我々3名で「腎臓内科・腎不全科」として出発することになりました。4月から泌尿器科にいられた阿部弘一医長、森田壮平医師も透析専門医であり、我々3名と合わせると透析指導医・専門医が4名、腎臓専門医が1名と強力な新体制となりました。今後は、泌尿器科医師5名と合わせて計8名で「腎センター」として

診療にあたりたいと考えています。

医療が高度化・専門化する今日、当院には透析施設としての役割と急性期病院としての役割との双方があります。前者は、近年増加・高齢化の一途をたどる（07年で導入時平均年齢が66.8歳とこの20年間で約11歳と高齢化が顕著です）透析導入に加え、導入前の問題、つまり難治性ネフローゼに対する治療や、最近取り上げられることの多い慢性腎臓病（CKD）の対策などです。CKDの患者数は約1,330万人に達し、成人8人に一人はCKDとされています。CKDは透析の予備軍でもありますが、最近では心・血管系疾患や脳血管系疾患のリスクファクターとなることも明らかになってきています。これらCKDの早期発見・早期治療も腎臓内科・腎不全科の役どころです。

後者には、維持透析患者様の透析合併症、